



RESEARCH INSTITUTE FOR JAPANESE TRADITIONAL MUSIC,
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター第67回公開講座

古代出土コトから和琴へ

～トークセッションとライブ～

2025. **3.23** 日

定員 **50**名

入場無料〈事前申込制〉

考古学者

松井一晃

×

仏師

浅村朋伸

TALK 第1部

13:00-14:15

古代の^{こと}琴のことを
古都以語り合う

弥生時代・古墳時代の琴はどんな楽器？
博物館で毎日琴を見る考古学者と
古代琴の復興に取り組む仏師
によるトークセッション

進行 田鍬智志

日本伝統音楽研究センター准教授

作曲家

藤家溪子

×

箏曲家

中川佳代子

第2部 **LIVE**

14:30-15:30

和^わ琴^{こん}の新たな
音楽表現

鎌倉時代の推定和琴奏法と声歌譜解読
による《御遊風講式声歌聚》
そして、京都出身で西アフリカは
ブルキナファソ在住作曲家に
よる和琴新作曲を、現代和琴
演奏家が奏でます。

会場

京都市立芸術大学
伝音セミナールーム

京都市下京区下之町57-1 (A棟1階)



構内に駐車場はございません。
各種公共交通機関をご利用のうえ
ご来場ください。

- 地下鉄烏丸線・JR各線・近鉄京都線「京都」駅下車 徒歩6分
- 京阪電車「七条」駅下車 徒歩10分
- 市バス 4・7・16・81・205・南5号系統 「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ

四糸遺跡出土琴(橿原市蔵)

和琴(現代)

受付
期間

2025年 **2/25**(火) 10:00~**3/12**(水) 17:00 〈WEB申込のみ・先着順〉

※ 下記の案内ページに設置する専用申込フォームよりお申込みください。 ※ 期間内でも定員に達した場合は受付を終了します。

申込方法詳細 ▶ https://www.kcua.ac.jp/20250323_denon67kokai



企画 / 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター (田鍬智志共同研究会)

<https://rijtm.kcua.ac.jp>

主催 / 京都市立芸術大学 <https://www.kcua.ac.jp>

問合せ / 京都市立芸術大学事務局 共創テラス・連携推進課

TEL 075-585-2006 (平日 8:30~17:15) E-mail public@kcua.ac.jp

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

京都市立芸術大学移転記念事業



第1部 トークセッション

古代の^{こと}琴のことを 古都で語り合う

みなさん、土の下で眠っている琴があるのをご存知ですか？そう、遺跡から出土する琴です。日本において琴が登場したのは、はるか昔、弥生時代のことでした。なんと古墳時代になると、琴を弾く埴輪も登場します。

では、いつ、だれが、なんのために、どのように、どんな琴を弾いたのか？どんな音がしたのか？また、どのように琴を作ったのか？

主に古墳時代の琴をテーマに語り合います。古都で琴トークを楽しみましょう。

(松井一晃)



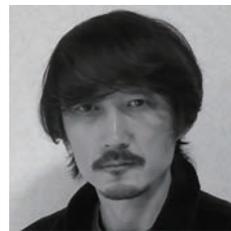
守山市服部遺跡出土琴の復元(製作・撮影: 浅村朋伸)



松井 一晃

MATSUI Kazuaki

橿原市魅力創造部文化財保存活用課(歴史に憩う橿原市博物館)課長補佐。東京学芸大学大学院修士課程修了。専門は日本考古学。奈良県橿原市で藤原京跡など発掘調査に従事。平成26年度より、「歴史に憩う橿原市博物館」で学芸業務に従事。博物館教育に力を入れており、みんなが博物館を楽しめるユニバーサルミュージアムの取り組みにも挑戦している。



浅村 朋伸

ASAMURA Tomonobu

1975年生。大阪府出身。奈良県大和郡山市にて仏像の制作、修理を行う。山伏の修行道を山伏、研究者、クリエイターらに案内する活動や、2020年より縄文、弥生、古墳時代の古代琴の復元、展示、古代琴を使用した楽曲制作の国内外音楽家への提案など『Tomonobu Asamura's Ancient instrument Revival Project』を開始。製作、フィールドワークを通じて日本の自然崇拝、古代社会における音、魂振りの儀礼、浄水を用いた儀礼、葬送儀礼など精神文化を推考。

第2部 ライヴ

和琴の新たな音楽表現

ぎょ ゆう ふう こう しきしやう か しゅう
《御遊風講式声歌聚》* (再演)

藤家 溪子 作曲 (委嘱初演)

《熊野ポータラカ》**

～和琴、声と電子楽器のための～

《熊野ポータラカ》

縁あって熊野に数か月間だけ住むことになり、冬の間すら水温いまだ暖かな熊野灘に度々泳ぎ遊んで、海底の珊瑚や小魚たちの行き来する景色に親しみ、さんさんと降り注ぐ陽光に煌めく水面や遙かな水平線を眺めては時の経つのを忘れる。海沿いには熊野三山に通ずる古道が伸び、補陀落渡海を遂げたという鎌倉の御家人・下河辺行秀智定坊の系譜の残る産田神社もそう遠くはない。熊野の限界集落に身を置きながら、ふと後白河院・後鳥羽院の度重なる熊野行幸、補陀落渡海、連続して起こった地震、はしか・疱瘡の大流行などの当時の状況と人々の心持を想像し、現在の私たちの時代と交差させながら描いてみたいという欲望が生まれた。

(藤家溪子)



藤家 溪子

FUJIE Keiko

作曲家/ピアニスト
京都出身。東京芸術大学大学院修了。1995年、女性として初めてNHK交響楽団が年間で最も優れた邦人オーケストラ作品に贈る「尾高賞」を受賞、2000年に再受賞。97年、京都大学創立百周年記念の《輝を垂れて千春を映さんとす》、京都府が委嘱の《京都・山河の響き》初演。04年から約10年間、家族と共に「山下和仁ファミリー・クインテット」を設立、そのための作曲と公演を中心に活動。2020年オペラ《A Vermilion Calm》をポーランドで初演、23年にベルリンで再演。2019年末以来、西アフリカ・ブルキナファソで現地の伝統音楽継承者たちとオペラ《Là-basouici...》を制作、EXPO2025 大阪・関西万博で公演予定。



中川 佳代子

NAKAGAWA Kayoko

高崎芸術短期大学卒業。NHK邦楽技能者育成会卒業。1989年CD「沢井忠夫合奏団の世界」文化庁芸術作品賞、1994年青山音楽賞、2002年賢順全国箏曲コンクール最高位「賢順賞」、2013年京都市芸術文化協会新人賞等受賞。1998年文化庁芸術研修員認定。2016年ジャパンソサエティー主催「現代神楽」NY公演(企画・作曲:藤枝守)。2018年MFJ音楽祭(NY)にて和琴と唄による現代曲初演(日本最古の弦楽器「和琴」を初めてアメリカへ持ち込んだとして話題となる)。2024年テリー・ライリー《In C》清水寺奉納LIVE。現代音楽の初演、即興、平安鎌倉期の古楽譜再現演奏など多彩な場面で活動。